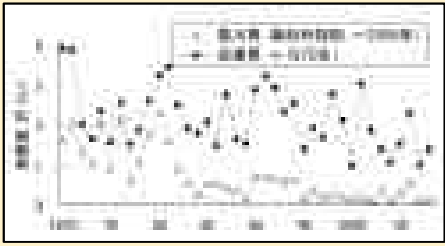


令和 2 年 3 月

「瀬戸内海における今後の環境保全の方策の在り方について（答申案）」に対する中央環境審議会水環境部会における意見を踏まえた修正及び技術的修正について

No.	該当箇所	修正点	理由
1	7 ページ	・ 7 ページ 17 行目を「海岸漂着物処理法に基づく対策基本方針の <u>変更策定</u> 」	・ 表現の適正化。
2	14 ページ	・ 14 ページ 36 行目を「また、水質、底質、 ・ 底生生物、藻場・干潟等の水環境全般に係る」と修正。	・ 表現の適正化。
3	15 ページ	・ 15 ページ 31 行目を『動植物プランクトンをはじめとする浮遊・遊泳生物等及び底質 ・ 、底生生物及び底質に係る状況の』と修正。	・ 表現の適正化。
4	16 ページ	・ 16 ページ 9 行目から 10 行目を「府県域を越えた課題解決に向けて、 <u>環境省が中心となり更に関係省庁が連携を深め、取組を推進し、</u> 」と修正。	・ 環境省がイニシアティブをとって、省庁間で調整・連携をしっかりと行うべきとの意見を踏まえ修正。

No.	該当箇所	修正点	理由
5	16 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 16 ページ 16 行目を「最大限の効果が発揮されるよう調和するべきである。<u>ことでこのように、様々な</u>」と修正。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記載内容を分かりやすくするため。
6	別紙 4 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ イカナゴ漁獲量の変化状況の根拠を以下のとおり修正 <p>● 漁獲量は 1980 年に最大値に達した後、1985 年にかけて急減している。また、漁獲量の大半をし占めていた内海型のイカナゴの減少については海砂利採取による影響が指摘されている【⑤】。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><u>イカナゴの減少</u> →海砂利採取による影響が指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1980 年代以降のイカナゴ漁獲量の減少は、海砂利採取がイカナゴ資源にとってマイナスに作用した可能性が指摘されている* </div>  <p>図 香川県と兵庫県のイカナゴ漁獲量の推移*</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 因果関係を記載する場合は根拠を含めて丁寧に記載すべきとの意見を踏まえ修正。

No.	該当箇所	修正点	理由
		<p>※山本昌幸・大美博昭・宮原一隆（2012）：<u>瀬戸内海における沿岸性主要資源の漁獲変動、水産海洋学会大会要旨集、15-16</u></p>	
7	別紙 8 ページ	<p>・養殖収穫量の変化状況の根拠を以下のとおり追記</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県の養殖収穫量は、カキ養殖が多くを占める ・広島県では 2005 年以降、漁場生産力等に応じた養殖規模による、カキの年間生産量の目標値を設定しており、近年の収穫量はおおむね横ばいで推移している ・採苗不調や生育不良が指摘されている※ </div> <p>※<u>中央環境審議会水環境部会瀬戸内海環境保全小委員会（第 12 回）ヒアリング資料（広島県）</u></p>	<p>・因果関係を記載する場合は根拠を含めて丁寧に記載すべきとの意見を踏まえ修正。</p>